

令和8年度 通信教育実施計画

松陰高等学校（本校／各学習センター）					
教科	科目	単位数	履修上の留意点		
地理歴史	地理探求	4	選択科目		
指導目標	(1)地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	(2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
	(3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。				
教科書		副教材等	添削指導	面接指導	
地理探求			12回	4単位時間	
多様なメディアを利用した学習による 面接指導時間数の減免実施の有無		☐ 実施している	多様なメディアを利用した学習による 減免後の面接指導時間数	該当なし	
		☐ 実施していない			
添削指導（レポート）					
回	学習内容			対応する 面接指導の回	提出期限
1	地形と人間生活との関係について、その形成過程や特徴を踏まえながら、世界の地形について理解する。			1	5月13日
2	各気候区の自然環境の特徴と人間生活との関係を学び、気候と自然環境、気候と人々の生活について理解する。			1	5月13日
3	産業の高度化に伴い社会的分業が複雑化し、地域的分業として表れていることや、地球規模視野に立脚しながら、日本の自然環境と自然災害、世界の環境問題、産業の発展と社会的分業について理解する。			1	6月6日
4	資源の国際取引を成立させている背景について資源の分布や消費の地域的な偏りとの関わりから、農林水産業、食料問題、エネルギーと鉱産資源について理解する。			2	6月6日
5	第三次産業の特徴や変化、流通産業の発達や情報通信業の集積、医療・福祉産業の国による違いや、資源・エネルギー問題、工場の立地と工業地域の変容について理解する。			2	7月4日
6	貿易の発達による世界の結び付きや、それによって生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みや、交通・通信、経済連携、観光、人口について理解する。			2	8月8日
7	村落・都市の機能や形態、分布の特徴、都市システム、都市内部の機能分化や大都市圏の発展過程や、人口問題、居住・都市問題、生活文化の地域性について理解する。			3	10月21日
8	民族紛争や難民発生の背景となるさまざまな要因や問題解決へ向けての取り組みや、言語・宗教、民族問題、現代の国家と領土問題、地域区分の意義と方法について理解する。			3	10月21日
9	中国と韓国を中心に、東アジアの産業や地域格差、東南アジアにおける工業化の進展や文化など、東アジア、東南アジア、南アジアについて理解する。			3	11月11日
10	ヨーロッパの地域統合に着目して、産業や都市の変化、地域格差などの地理的事象、西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカについて理解する。			4	11月11日
11	ロシアにおける民族や人々の暮らしの変化、産業地域の変化などの地理的事象、アングロアメリカにおける自然環境と歴史・民族、経済、産業の発展と変容、ラテンアメリカにおける自然環境や歴史・文化、開発について理解する。			4	12月5日
12	ロシア、アングロアメリカ、ラテンアメリカについて理解する。			4	1月20日
面接指導(スクーリング)					
回	単位時間	学習内容		実施場所	実施日
1		人間の生活の基盤である地形について、規模と形成要因に着目し学習する。気候区の特徴となる気温と降水量の地域ごとの違いや、日本の自然環境の特徴を、地形と気候の視点から理解し学習する。		各学習センター	5月
2		農林水産業がどのような地域に立地し、その形態にどのような地域性があるのか学習する。世界の飢餓や飽食、食糧自給率の低下など食糧問題の背景を学習する。交通・通信の発達によって生じる問題の要因や解決に向けた取り組みを考える。		各学習センター	7月
3		発展途上国と先進国が抱える人口問題や、文化と環境の相互関係、文化が変容する理由について学習する。世界をいくつかの地域に区分する方法や地域の概念、地域区分の意義、地球環境問題などを学習する。		各学習センター	10月
4		ロシア、アングロアメリカ、ラテンアメリカの自然環境や歴史、産業などの地理的事象を整理して学び、各地への理解を深める。西アジアと中央アジアの両地域における地理的事象の共通点と相違点に着目しながら、各々の地域の特徴について学習する。		各学習センター	12月
多様なメディアを利用した学習					
計画段階では実施予定なし					
試験					
回数	試験範囲			実施場所	実施日
1	レポート1～6			各学習センター	9月
2	レポート7～12			各学習センター	2月
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準					
添削指導、面接指導、試験の結果を総合的に評価する。					
所定の添削課題の提出、面接指導の受講、試験の受験を満たし、学習成果が認められる場合に単位を認定する。					
その他					
各学習センターでは、本校の通信教育実施計画及び指示に従い実施する。施設状況や生徒の状況等に応じて日程・実施方法を調整する場合も、本校の承認又は指示のもと、指導内容・評価・単位認定基準に変更が生じない範囲で対応する。					